

学会参加報告

麻酔科・ペインクリニック 金出政人

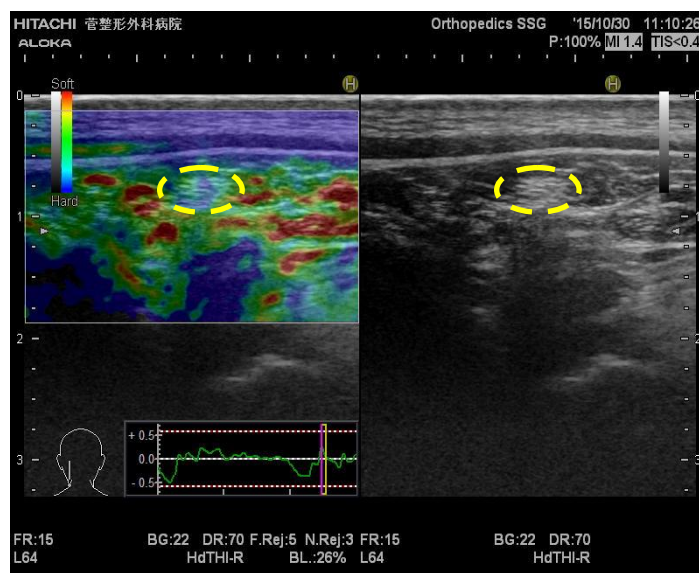
先日、第9回日本運動器疼痛学会（2016年11月26日（土）～27日（日）、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京））において、普段、ペインクリニック外来で行っています「超音波ガイド下トリガーポイント注射」について口演してきました。

筋・筋膜性疼痛症候群に対して行うトリガーポイント注射は、一般的には、超音波（エコー）を用いませんが、当科では必ず超音波を用いています。超音波をトリガーポイント（軽い圧迫で痛みが生じる過敏点）に当てると、そこには、筋肉の硬結（しこり）や、筋膜の肥厚、また上殿皮神経障害では腫脹した神経そのものを見ることができます。そして、それぞれの特徴に合わせて、硬結内注射や、筋膜間注射、神経ブロックを超音波ガイド下に適切に行うと、良好な鎮痛効果が得られます。

口演後の質疑応答では、「エコーをみながら、硬結の近傍に薬液を注射すれば、有効かつ痛くないトリガーポイント注射ができるのではないか？」という、大変貴重な意見をいただきました。今後の課題にしていきたいと思います。

また、学会の最後に、市民公開講座で、落語家の林家木久翁師匠が、車椅子に乗るほどの、難治性の腰痛を東京慈恵会医科大学附属病院ペインクリニック科の北原雅樹先生の治療と、リハビリ（加圧トレーニング）で乗り越えた、ご自身の貴重な治療経験を、大変面白おかしく講演して下さいました。

なかなか木久翁師匠のようにうまくいきませんが、今より少しでも痛みを苦しんでいる患者さんを救えるように、今後も日々の診療を大事に、研鑽していきたいと思います。



超音波でみた筋の硬結